

広島県支部

『次世代自動車の中国地域の自動車関連産業への影響の考察と対応策の提言』

1. 次世代自動車とその動向

各国の自動車企業において、次世代 GE/DE 車、HEV/PHEV、EV、FCEV などの次世代自動車が開発され、市場に導入されている。日本はその開発競争の先頭に立っている。

その背景には、地球環境保全や自動車の主要な動力源である石油資源の枯渇の懸念のために、日本や欧米などの主要各国の CO2 規制や燃費規制の強化、再生可能エネルギーの開発など、中長期的なエネルギー源のカーボンフリー化に向けた取り組みの推進がある。

次世代自動車は、HEV/PHEV や次世代 GE/DE の過渡的な混在期を経て、長期的には EV、FCEV が主流になるものとみられる。EV、FCEV の普及によって、エンジン・吸排気系部品・変速機などの機械加工部品が不要となり、一方、電池、モーター、電子制御部品などの電気・電子部品が増加する。

2. 中国地域の自動車産業の特徴と課題

中国地域には、広島県・岡山県・山口県に跨るマツダ、三菱自動車の自動車産業の集積がある。同地域の自動車産業は、EV、FCEV の普及によって不要となる機械加工部品に強く、一方、増加する電気・電子部品に弱い。機械加工メーカーの対応、電気・電子産業の育成・強化が中国地域の自動車産業の課題となっている。

中国地域の自動車産業は、マツダ、三菱自動車などの最終組み立てメーカーを頂点に、ティア1, 2, 3 といった部品メーカーによるピラミッド構造を構築してきた。

そのなかで経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）の豊富なティア1は系列外取引の拡大、海外展開、新技術開発への取り組みなどを活発に行い、環境変化への対応に取り組んでいる。

商品メーカーの8割以上を占めるティア2, 3は、経営資源が限られ、多くを従来の系列取引のティア1に依存している。そのため、大きな環境変化に取り残されるおそれがあり、何らかの対応が求められている。

3. 取り組み施策の提言

ティア2, 3を中心とした。経営は変化への対応である。内外の経営環境の変化を把握し、意識の変革と適切な対応が求められる。そりための戦略的な思考、意識の変革、環境変化への対応力をつけることの重要性を説明し、具体的な取り組み策と事例を紹介した。

EV、FCEV普及には、今後、多少の時間的な猶予が残されており、生き残りに向けた取り組みに残された、重要な時間である。環境変化を機械ととらえ、あえてリスクに挑戦する気概をもつ企業こそ、今後生き残っていく企業であり、我々も支援を行っていく。